

【会員だより】

卒業9年目、現在の自分を見つめなおしてみ

滋賀医科大学医学部附属病院 阪西克哉(大4回生)



皆さんが想像する技師歴9年目あるいは10年目の方はどのような人でしょうか。検査室のリーダーとしてバリバリ検査をしつつ予約管理や全体のフォローもこなす方だったり、主任となりモダリティの管理や安全管理そして運営をしておられる方だったり。そういう立ち位置を想像することも多いのではないのでしょうか。私も今年9年目となり、少し自分を見つめなおしてみることにしました。

今回投稿依頼をいただいたとき、「こんな税が上がらない若輩者にそんな大役が務まるのか」と慌てふためき、小心者である私は締め切りが刻一刻と近づくにつれ、書く内容すら思い浮かばない、こんなことなら最初から断っていればよかった、と悩みを膨らませていました。

そんな日々を幾らか過ごしたとき、ふと我に返り、思いました。若輩者とは言うが自身の技師歴年数は一体何年目であっただろうかと。数えてみると自分はもう9年目であり、ネットで調べたアンケートによると300人のうち半数程が、職歴10年目以降で「企画リーダーや監督者を任せられる」と答えた(人材情報サービス大手企業調査)そうです。それを考えれば私はベテランとはいかずとも中堅にはあてはめられることも多い年数であり、検査室のリーダーとして後輩たちを引っ張っていく、かつ検査の質や安全性の向上など全体を俯瞰して考える役割がもう自分にはあるのだということを再認識させられました。

思い返せば、私が新人だった頃で9年目ぐらいの先輩方といえば、何でもできるスーパーマンばかりでした。例えば...

- ・CTAのモニタリングが体動で骨にかかってしまった時に、通りがかった先輩が咄嗟に音声ボタン(キヤノン社製CTではマイクボタン押しとスキャン直前で止まり、離すとそのままスキャンが始まる)を押して患者さんの気分を伺ったり説明したりしながら最適なディレイタイムで復帰させる。瞬間の判断力と検査内容を考察しながらの患者対応、そして修正力、十秒にも満たない時間にどれだけ思考したのかと驚愕しました。
- ・技術学会の秋季大会の演題を朝に思いつき、その日の当直で発表スライドを作り上げる。疑問をそのまま放置しない探求心や実験を即座に行いスライドまで作成してしまう行動力に度肝を抜かれました。
- ・MRIの勉強会で体動補正の機能の話題が出れば次の日にはプロトコルに組み込み検証する。聞いた知識を知識のままでは終わらせない姿勢に尊敬の念を抱きました。
- ・医師から、この機能使いたいから物理検やってくれない?と真っ先に相談される。日ごろから医師の質問に答えている行動が信頼を勝ち得ているのだと学びました。
- ・後輩が検査で失敗して落ち込んでいれば飲みを誘ってくれて、相談に乗ってくれる。本当に親身になって聞いてくれていた人柄の良さに感動しました。新人の私はその姿に憧れました。9年後自分もこうなっていたい!上司や医師からは信頼されて仕事や検証を任せられ、後輩からは慕われて頼りにされている、そんな人を目指そうと。9年という時間はとても先のことだと思っていたのです。

さて、あっという間に時が過ぎ、今年がその9年で、果たして目標にたどり着いているのかということですが、結論から言うと全く達成できておりません。CT検査ではいまだにCTAで手に汗握る展開を演出していますし、MRIではもっと良いプロコルが組めたのではないのかと後悔が絶えません。最近では治療に配属され、学生以来ほとんど使っていなかった知識を引っ張り出して四苦八苦しているような毎日です。そして日々若手のような感覚でわたしもまだまだだなあとのんびりし、経験年数もすっかり忘れていたぐらいの体たらく。「会員だより」の依頼がなければ何も思うことはなかったでしょう。しかしこの機会に自分を見つめなおすことができ、また目標に対するモチベーションを思い出すきっかけになりました。憧れていた姿に少しでも近づけるようにと、新人のようにがむしゃらに頑張る時がまた来たのだと思います。

皆様も昔目標にした人などはいらっしゃいますか。もしいるなら当時のその人と同じ経験年数になった時、同じ姿になれていましたか。

末筆となりましたが、学友会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

以上